

市長記者会見記録

日時：2024年7月2日（火）14時00分～14時45分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：ASIAN JUMP ROPE CHAMPIONSHIPS 2024 を日本で初開催します！【市民文化局】

話題提供：新川崎・創造のもり地区の機能更新及び南渡田地区の拠点形成に向けて市長が
アメリカ・ニューヨーク州、マサチューセッツ州を訪問します【経済労働局・
臨海部国際戦略本部】

<内容>

【議題】

《ASIAN JUMP ROPE CHAMPIONSHIPS 2024 を日本で初開催します！》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日の議題は、「ASIAN JUMP ROPE CHAMPIONSHIPS 2024」を日本で初開催についてとなっております。

まず初めに、本日の記者会見に御同席いただいている方を御紹介いたします。

日本ジャンプロープ連合理事、原竹純様でございます。

【原竹理事】 よろしくお願ひします。

【司会】 初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願ひします。

【市長】 日本で初めて開催される「ASIAN JUMP ROPE CHAMPIONSHIPS 2024」について御説明を申し上げます。

本市では、川崎らしい地域資源である若者文化の発信により本市の魅力を高め、「若い世代が集い、賑わうまち」を目指しており、その一環として、こうした若者文化に関連する国内外の大会の誘致に取り組んでおりますけれども、今月24日から28日にカルッツかわさきにおいて、「ASIAN JUMP ROPE CHAMPIONSHIPS 2024」とダブルダッチのパフォーマンス部門の世界大会「DOUBLE DUTCH CONTEST WORLD 2024」が開催されます。

大会スケジュールにつきましては、24日にアジア選手権が開幕いたしまして、27日の決勝戦にかけて、10の国と地域から各国の予選を勝ち抜いてきた約740名の選手による熱い戦いが繰り広げられます。また、28日には同時開催となるダブルダッチの世界大会の「DOUBLE DUTCH CONTEST WORLD 2024」が開催されます。観戦チケットにつきましては現在販売中となっております、私も熱い戦いを観戦するために会場に足を運ぶ予定でございます。

次のページの中段を御覧ください。大会の開催に当たりましては、ダブルダッチをはじめとするジャンプロープの普及啓発、及び機運醸成に向けた様々な関連する取組を実施してまいります。

まず、ダブルダッチのソロのチャンピオンシップ「ONE'S」を27日と28日に開催いたしますが、ダブルダッチの魅力を感じていただけるよう、27日には本庁舎の1階アト

リウムにステージを設置いたしまして、広く市民の皆様に観戦いただくとともに、体験会を開催いたします。また、アジア選手権に市内小学生の無料招待を実施するなど、多くの子供たちに、世界で活躍する一流のプレーを見ていただく機会を提供してまいります。

併せて、来川される大会参加者に本市の魅力を知ってもらうために、川崎駅周辺での夕食の際に利用できるミールクーポンを配布するなど、川崎を見て、食べて、楽しんでもらう取組を実施いたします。今年は市制100周年の記念すべき年でもあり、この節目にこのような大規模な大会を開催できることは非常に意義深いと考えております。アジア各国からの選手をはじめとする関係者の皆様に円滑に迎え入れ、最高の舞台を提供できるよう準備を進めてまいりますとともに、「ASIAN JUMP ROPE CHAMPIONSHIPS 2024」を成功させ、来年に本市が開催を決定しているジャンプロープの世界選手権につなげていきたいと考えております。

私からは以上です。

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、本日御同席いただきました原竹様から、大会の概要等について御説明をお願いしたいと存じます。それでは原竹様、よろしくお願いします。

【原竹理事】 ただいま御紹介にあずかりました日本ジャンプロープ連合理事兼事務局長及び国際ジャンプロープ連合の理事を務めております原竹純と申します。今日はこのような素晴らしい機会をいただき、本当にありがとうございます。こんなにカメラの前で話をするのが初めてなので、あまり上手に話せないかもしれませんが、少しお時間をいただき、御説明させていただきたいと思っております。

まず、「ジャンプロープ」という言葉、皆さん、耳にしたことはございますか。まだあまり日本では普及してないかと思うんですが、基本的には縄跳びです。1本のロープを使う縄跳びと2本のロープを使うダブルダッチ、あと、小学生がよくやる長縄、8の字跳びとかを総称して「ジャンプロープ」と呼んでおります。我々は、このジャンプロープを日本国内で普及している団体となっております。

この競技の国際統括組織である国際ジャンプロープ連合には、世界の約60か国の国と地域が加盟しており、オリンピック競技への採用に向けて取組を進めております。今回のアジア選手権大会の主催団体であるアジアジャンプロープ連合は、アジア地域における公式組織として設立されて、2023年にはアジア・オリンピック評議会、Olympic Council of Asia、OCAという団体があるんですが、IOCのアジア大陸の組織になります、に承認団体として認められています。なので、今後のアジアンゲームス等には、ジャンプロープが正式採用になれる可能性が今出てきたという状況です。次の愛知、名古屋、アジアンゲームスがあるんですが、そこはちょっと難しそうなので、その次を目指しております。

今回、ここ川崎でアジア選手権を開催することになりましたが、川崎市では、武蔵溝ノ口の駅の改札前で練習していたダブルダッチの選手が世界チャンピオンになるなど、ブレイ

キンも武蔵溝ノ口の駅前は聖地なんですけれども、ダブルダッチもその横で練習をさせていただいていた経緯があります。私も学生の頃、よく練習させていただいておりました。もう二十数年前の話なんですけれども、練習させていただいておりました。

昔から川崎市内はすごく、ブレイキンに負けずダブルダッチも盛んな地域でありまして、今ではジャンプロープの全日本選手権大会、また、高校生のダブルダッチ全国大会の

「ITADAKI」という大会、大学生のナンバーワンを決めるダブルダッチ

「DELIGHT」という大会も全国規模の大きな大会を、ここ川崎市内で開催させていただいております。こうした背景のある川崎で、日本国内初となるジャンプロープのアジア選手権を、ここ川崎市で開催できることを大変うれしく思っております。しかも、100周年という節目の年にできて、本当にありがとうございます。

この大会では、我々は縄跳びのことを1本のロープなのでシングルロープと言うんですけれども、シングルロープとダブルダッチ、2本のロープにおいて、決められた時間で何回跳べるかを競うスピード競技、そして、体操競技のように、技の難易度などを競うフリースタイルの種目が繰り広げられます。また、今回から初採用となったんですけれども、長縄跳び、長縄、大縄のアジア選手権大会が開催されます。この長縄は国別の対抗戦となっておりますので、どの国が強いのかというのはすごく見所になっているかと思っています。

スピード競技についてなんですけれども、30秒間に速く回して駆け足跳び、ボクサーとかがよくウオーミングアップでやるような感じなんですけれども、30秒間で何回跳べるかという種目があるんですけれども、数えるのは右足だけなんです。右足が地面についた数なので、トップ選手になると30秒間で約110回、右足カウントなので、左足も合わせると220回ということは、1秒間に約7回跳びます。ダブルダッチになると、今度は回す人と跳ぶ人が別々なので、跳ぶ人だけ跳ぶことに集中ができるので、ダブルダッチは140回、トップ選手、280回なので1秒間に9.5回ぐらいダダダダダッと駆け足をするぐらいの速さになります。ジャッジがぎりぎり肉眼でジャッジできるような状況です、今のところ。早くAIが追いついてきてほしいなと我々は思っています。それがスピードの見所になります。

フリースタイルは、シングルロープ、縄跳びもダブルダッチも、ロープの中でいろんなアクロバットをしたりダンスを踊ったり音楽に合わせてやる競技になっております。日本は世界選手権大会でも多くの金メダル、メダルを獲得しておりまして、今回もすごく楽しい日本代表の選手たちがいっぱいいるので、ぜひ見に来ていただければと思っております。

ジャンプロープはロープさえあれば始められますし、狭いスペースでもできますし、ダブルダッチに関しては、1人ではできないというデメリットもあるんですけれども、今、携帯とかゲームとかがはやって、1人で遊ぶことが多い子供たちの中で、3人以上集まらないとできないスポーツもすごく重宝されていて、いろいろなコミュニケーションがそこで生まれて、自分たちでいろんな問題を解決できる一つのいいツールになっているのかなと我々は考えております。

また、このアジア選手権大会を川崎で開催させていただいて、まだまだジャンプロープ、シングルロープ、縄跳び、ダブルダッチを知らない人たちにこの競技の魅力を伝えていって、将来的にはオリンピック種目になればいいなど、我々日本の団体、世界中の団体、手を取り合って、今頑張っているところでありますので、ぜひ興味のある方は7月24日から28日にカルッツかわさきにお越しください。

以上となります。ありがとうございます。(拍手)

【司会】 ありがとうございました。それでは、本議題に関する質疑応答に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑については、本議題の質疑が終了後、改めてお受けいたします。それでは、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いします。

【毎日（幹事社）】 毎日です。市長に伺いたいんですが、これは原竹さんへの質問にもなると思いますけれども、今回川崎でやることになった決め手は何だったんでしょうか。ほかにも候補都市はあったと思うんですけれども。

【市長】 決め手というか、私たちは誘致した側なので、決定していただいたのは……。

【毎日（幹事社）】 じゃ、どの辺をアピールされたかというのを。

【市長】 川崎は、先ほどおっしゃっていただいたように、ダブルダッチでも聖地化している部分があります、溝の口駅前を中心に。若者文化を推しているまちですので、そういった意味では、ジャンプロープは必ずブームが、ブームというか、すごく来ます。これは間違いなく来ると思っていますが、日本では初開催を川崎というのは、ある意味、私たちからすると必然であり、必ずやりたいというところでしたけれども、そこを連盟として認めていただいたんだと思っています。

【原竹理事】 国際連合の会長、ショーン・ハミルトンというアメリカ人の方なんですけれども、私、20年ぐらい付き合いがありまして、国際連合が、国際大会をまず日本でやりたい、いつになったらできるんだという話をずっといただいていて、やっとなら、日本国内の組織が成熟してきたというか、少し大きくなってきて、協力してくださる皆さんが増えてきたので、このタイミングでやりたいなと思っていたときに、ちょうど川崎市さんが市制100周年で国際大会を誘致しているという話を耳にして、国際連合の会長に、「川崎市さん、100周年でダブルダッチもすごく活躍している選手がいっぱい生まれていて、アーバンスポーツにすごく力を入れてくださっている都市で開催できるんだけどどう？」と聞いたら、1回見に行かせてくれと言うので、一度下見に来て、まず川崎駅前からカルッツまでの会場を歩いてみて、いろんなお店がある。これは選手にとって楽しいであろう。そして、ホテルも十分にある。駅の反対側に行けば、ラゾーナさんみたいな大きなショッピングモールもある。そして羽田空港からも近い。ここでやらないわけがないよねという話になり、あと、日本が大会の運営にもほかの国に比べればたけているということもあり、日本でやるなら川崎市さんが誘致しているということなので、川崎市さんでぜひやろうということに2年ぐらい前になりました。

【毎日（幹事社）】 ありがとうございます。

【産経（幹事社）】 産経新聞です。よろしくお願いします。日本初開催ということで、この大会自体は何回目になるんですかね。

【原竹理事】 今まで国際連合が2つありまして、2つあると、どうしてもオリンピック種目にはならないとI O Cの方々から指導を受けまして、2018年に、この2つの国際組織が合併しました。1発目のアジア大会がコロナ禍の中だったのでオンラインで開催して、現地開催は今回が初めてになります。

【産経（幹事社）】 あと、参加人数だけでも830人、選手だけで830人という……。

【原竹理事】 はい。選手だけとなります。

【産経（幹事社）】 そうすると、関係者と観客も含めて、どれくらいの人が期間中川崎に来て、経済効果はどれくらいだと見込んでいるのでしょうか。市長をお願いします。

【原竹理事】 経済効果までは分からないですけれども、一応1,200名ぐらい、250名日本代表選手もいるので、約1,000名の海外の方が川崎市に来ることになります。23日の公式練習とエントリーから29日の最後、ワークショップ、トップレベルの選手が教えてくれるワークショップまでであるので約1週間、1,000名の方が1日3,000円を使うとなると、まあまあな経済効果になるかと思います。

【産経（幹事社）】 市長、その辺はいかがでしょうか。

【市長】 3,000円よりかは多く使っていただけたと思いますけれども。いや、経済効果、はっきり言って、幾らということは言えないんですけれども、当然1,000人近い海外の方が来てくださって、観客も含めてということになりますと、かなり地域はにぎわうのではないかなと期待していますし、先ほど申し上げたミールクーポンというのをお出しして、協力いただける飲食店が200店舗と、かなり広範囲に協力いただけるというのは、今回の大会もそうですし、海外からの受入れ環境を整えていくというのにも非常に意義のある大会になるのではないかと考えています。

【産経（幹事社）】 あともう1点、川崎市共催ということなんですけれども、川崎市が共催をやる意義というか、共催になることによって、やらなきゃいけないこととか義務とか、そこら辺を教えてください。

【市長】 義務的なもの、じゃ、事務方からでもよろしいですか。

【市民文化局】 川崎市の共催ということで、当然ながら、大会の運営自体はジャンプロープ連合の方々が準備されますけれども、先ほど申し上げました地域に還元するような取組、ミールクーポンであるとか、そういった部分の調整、また、シティードレッシングの調整などは川崎市で請け負わせていただいておりますし、また今回、国際大会ということで、ボランティアの方も多言語のボランティアの方々を多く求めているのですが、そういった方々の募集であるとか、そういった部分も川崎市で担わせていただいております。

以上です。

【産経（幹事社）】 ありがとうございます。

【日経（幹事社）】 幹事社から以上です。各社さん、どうぞ。

【神奈川】 神奈川新聞と申しますけれども、長縄は何人で跳んで、どのぐらいの競技なのか、ちょっと気になっちゃう。

【原竹理事】 ありがとうございます。2種目ありまして、まず、8人が一緒に跳ぶ種目、エイトジャンパーズと言うんですけれども、2人のロープを回す、ターナーと言うんですけれども、8人が1分間に何回跳べるか、8人同時にという種目と、あとは、小学校でよくやる8の字跳び、8人の選手が1人ずつ跳び越えていく種目、2種目になります。

【神奈川】 ちなみに1分間で何回ぐらい……。

【原竹理事】 今、ギネス記録を日本の小学生が持っているんですけれども、時間が違うので何とも言えないんですけれども、たしか日本の予選、予選というか、日本代表を決めたときは1分間で2倍以上は跳んでいたの150とか、8の字跳びのほうなんですけれども。うそついちゃうとあれなので、すみません、調べさせてください。その間に次の質問とかいきますか。

【読売】 読売新聞です。市長に伺いたいんですけれども、今年の夏、ブレイキンがパリ五輪に初種目になって、今回また、ジャンプロープも日本で初開催で川崎が選ばれて、若者文化がさらに飛躍していくのかなと見受けられるんですけれど、その辺の市長としての所感と、ジャンプロープが日本で初開催でブレイキンも初開催ということで、何かそういう思いみたいなのがあれば伺いたいです。

【市長】 昨日も来てくれていましたけれども、ブレイキンで言うとAMIさんが五輪に決定したりとか、半井重幸さん、Shigekixとかいう形で、非常に世界的な活躍を川崎出身あるいは川崎にゆかりのある方たちが出ていっているというのは、そういうやる環境があるとか、みんなでサポートするとか、そういうことがすごく大事だと思っています。これからやっぱり、ジャンプロープもそうなんですけれども、REG☆STYLEとか、世界に輝いているチームが川崎に拠点を置いて活動していただいて、若い人たちをどんどん、どんどん育てていっている環境が、これがどんどん大きくなるんだろうということを期待していますし、それをしっかり応援していきたいと思っています。

昨日も100周年のときに言ったんですけれども、若い人たちの挑戦を応援し続けるまちという。何か新しいことを挑戦しようと思ったら川崎に行こうと、そう思っただけのような応援の仕方、サポートの仕方をこれからもやっていきたいと思っています。ですから、若者文化、いわゆるアーバンスポーツみたいなものをしっかりと応援していきたい。ジャンプロープを含めて応援していきたいと思っています。

【朝日】 朝日新聞です。これは現地で取材はできるのでしょうか。

【原竹理事】 はい、できます。

【朝日】 あと、事務方から提供写真を頂きたいんですが、大丈夫ですか。

【市民文化局】 はい、お渡しできます。

【朝日】 じゃ、よろしくお願いします。

【原竹理事】 取材に来ていただけるということで、ありがとうございます。

すみません、先ほどの、見つけました。8の字跳びが193回です。8人同時に跳ぶのが86回が日本チャンピオンの記録になっています。

【毎日（幹事社）】 それは、時間とかじゃなくて連続でということですか。どういう単位の話なんですか。

【原竹理事】 これ、1分間だったと思うんですよね。すみません、長縄、初めてなので。時間に関して、1分間だったと思うんですけど、また調べてお伝えさせていただきます。

【朝日】 世界の競技人口を教えてくださいませんか。あと日本国内の。

【原竹理事】 国際連合もまだ若い団体でして、国によって選手登録をしている国もあれば、団体登録をしている国もあって、競技人口がはっきりと出てないみたいなんですけれども、一応国際連合が競技人口と伝えているのは、全世界で5万人ぐらいじゃないのか。トップ選手ですね。世界選手権大会とか国内選手権大会に出場するような選手たちは5万人ぐらいではないかと言っています。国内では、昨年度は約1,800名の選手が選手登録をして、世界選手権大会、日本代表を目指して活動しております。

もともと1996年に、まず日本国内の日本ダブルダッチ協会というダブルダッチ専門の協会ができて、その後、縄跳び、ダブルダッチ一緒にやっている団体ができまして、それも2018年に日本国内で合併をして、1996年から統計を取っているんですけども、1,800名は過去最高の選手登録人数。コロナで一旦下がってしまったんですけども、また右肩上がりになっていっているような状況になっております。

【朝日】 あと、すみません、名刺交換したいので、会見が終わるまで残っていただくことって……。

【原竹理事】 もちろんです。

【読売】 読売新聞と申します。原竹さんに伺いたいんですけども、7月29日に交流会みたいなもの、ちょっと今お話が出ていましたけど、どういうものなのですか。

【原竹理事】 アジア連合で主催する、世界から集まった選手たちに向けたワークショップになっておりまして、各国のトップ選手が若いアスリートたちに技術を指導する、プラス異文化交流を行うというワークショップが朝9時から夕方6時まで選手たちにはあります。指導者たちには、お昼から「セーフティースポーツ」というテーマで、公平で安全なスポーツ運営をしていきたいと思いますというようなレクチャー、講義があります。

【読売】 その29日の要項とあって、多分この資料にないと思うんですけど、小さい子供たちが参加してとかだったら取材の場としていいかなとちょっと思ったんですけど、それはこちらから行けたりもするんですか。

【原竹理事】 はい。一応アジア選手権大会に出場する選手対象のワークショップにはなっているので、あまりオープンにはなっていない情報なんですけれども、必要であれば御提供させていただきます。ぜひ取材にいらしてください。

【東京】 東京新聞なんですけれども、不勉強で申し訳ないんですけども、今回、川崎市在住の選手が2人出場されるということで、今年の賀詞交歓会でもREG☆STYLEの

方がプレーを披露してくださったりしましたけれども、今回出場される2名の方は、変な言い方ですけども、ある程度有名で、名前を出したりしても差し支えない方だったり、例えばカテゴリーがキッズとか、何か面白い要素があったりしたら教えていただきたいんですけども。

【原竹理事】 その2名はどの2名でしょうか。誰でしたっけ。

【市民文化局】 在住の方は、市内在住の中学生と高校生の生徒（※）が出場されるような形でございます。あとは、在住以外ですと、川崎文化会館などで活動されている REG☆STYLEのKAIさんが、今回は選手としてアジア選手権に出場するという形でございます。

以上、よろしいでしょうか。

（※「市内在住の中学生と高校生の生徒」は、市内で活動されていますが在住ではないため訂正します。）

【神奈川】 先ほど、来年には世界選手権を川崎でもう既にやるのは間違いないんですか。すみません、勉強不足で。

【原竹理事】 確定しております。

【神奈川】 来年の何月ですか。

【原竹理事】 7月末から8月頭にかけてです。

【神奈川】 今回のこのアジア予選を勝ち抜いた人がそこに行くという認識でいいんですか。それとも……。

【原竹理事】 また別で、各国で今度は世界選手権大会用の国内予選会を通過した人たちが、来年の世界選手権大会に参加できることになっております。

【神奈川】 先ほど、愛知でのアジアゲームはちょっと無理かもしれないですけどというようなお話もされていましたが、その次というと、どこの大会に、2000何年の……。

【原竹理事】 4年おきなので、この間、見たんですよ、それ。カタールとか、中東だった気がするんですけど、その4年後を目指しておりますし、オリンピックに関しては、28年のロスまでは競技が決まっているので、その次、32年のオーストラリア・ブリスベン大会で正式採用されるように、今、全世界の人たちが一丸となって動いております。今回、パリオリンピックでも実はブレイキン……、言っているのか分からないんですけど、ブレイキンの会場で、前日にダブルダッチとジャンプロープのプレエキシビジョン大会みたいなのを、IOCとフランスのジャンプロープ連合の方が話をしてくださって、実際にやることが決まっております、日本からも3名連れて行ってまいります。なので、IOCの方とかオリンピック関係者にいいアピールができるのではないかと思います。

【神奈川】 ありがとうございます。

【原竹理事】 もしかしたらこれ、言っちゃ駄目かもしれないです。ごめんなさい。

【司会】 以上でよろしいでしょうか。

それでは、最後に写真撮影に移らせていただきます。福田市長と原竹理事、前方の中央の

ほうにお集まりいただければと思います。報道の皆様も、撮影のほどお願いできればと思います。

(写真撮影)

【司会】 どうもありがとうございました。原竹様にはここで御退席をいただきます。

【原竹理事】 ありがとうございました。

【話題提供】

《新川崎・創造のもり地区の機能更新及び南渡田地区の拠点形成に向けて市長がアメリカ・ニューヨーク州、マサチューセッツ州を訪問します》

【司会】 続きまして、話題提供といたしまして、新川崎・創造のもり地区の機能更新及び南渡田地区の拠点形成に向けて、市長がアメリカ・ニューヨーク州、マサチューセッツ州を訪問となっております。それではまず、福田市長から本話題提供について御説明いたします。市長、よろしくお願いします。

【市長】 アメリカ合衆国ニューヨーク州及びマサチューセッツ州への訪問について話題提供させていただきます。

本市では、量子イノベーションパークの形成に向けた新川崎・創造のもり地区の機能更新と川崎臨海部における大規模土地利用転換が始動しています。両地区は、既に具体の拠点形成に向けた取組が進み始めています。今後、世界的な産業クラスター拠点への成長、発展に向けて、あらかじめ世界有数の産業クラスター拠点であるアメリカ・ニューヨーク州及びマサチューセッツ州等を視察しまして、知見を得て、両地区の拠点形成に反映させていきたいと考え、このタイミングで視察に行くことにいたしました。

ニューヨーク州では、量子イノベーションパーク実現に向けたキープレーヤーの1社である日本IBMの副社長兼最高技術責任者の森本氏とともに、現地で米国IBM研究トップのダリオ・ギル氏と面談し、量子コンピューター等の次世代コンピューティング技術を中核とした取組に関する意見交換と視察を行います。

マサチューセッツ州では、グリーン・タウン・ラボなどでクライメートテックを軸とするエコシステムの先進事例の視察を予定しておりまして、スタートアップ企業や最先端技術、高度人材が生まれ、成長、集積するエコシステムの状況、拠点の中核を担う企業やイノベーション創出を先導するアカデミアの先進的な取組事例等を調査いたします。

私のほか随行2名、日程は7月14日から7月21日までの8日間を予定しております。私からの説明は以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明しました件と市政一般に関する質疑を併せてお受けいたします。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いします。

【毎日（幹事社）】 ニューヨークとマサチューセッツですが、量子コンピューティング関連の先進的な拠点ということなんですか。特に、何をつかみ取りたいというようなお気持ちで行かれるのか、その辺を教えてください。

【市長】 今回行くIBMの研究拠点でありますけれども、こちらはまさに量子コンピュー

ティング、あるいは先端半導体の研究拠点になっているところでありまして、そこでいろんな人材が集まる、研究者が集まるようなまちづくりの視点でありますとか、どういう仕掛けでもってこういう研究、このクラスターをつくっているのかということ、様々アドバイスなどをいただきながら、今度の新川崎の機能更新の参考にしていきたいと思っています。

【産経（幹事社）】 その関係といたしますか、随員職員の方2人というのは、どういう立場の方が行かれるのでしょうか。

【市長】 臨海部の本部長の玉井局長と経済労働局から田辺部長の2名です。

【毎日（幹事社）】 各社、どうぞ。

【東京】 今回、川崎市から合計3人の方が行かれるということになると思うんですけれども、宿泊費や渡航費用など合計お幾らになりますでしょうか。

【市長】 全て含めると450万円になります。航空券、現地借り上げの車、宿泊費等で合計で450万円程度と見込んでいます。

【東京】 あと、市長の公務での外国訪問は、去年の10月のオーストラリア以来で合っていますでしょうか。

【市長】 そうですね。合っています。

【東京】 ありがとうございます。

【朝日】 朝日新聞でございます。量子コンピューターのメーカーはIBMだけですか。ほかのメーカーの御見学は予定されているのでしょうか。

【市長】 今回はIBMに限っております。

【朝日】 そうですか。あと、北米産業のインキュベーターを御視察するということですが、理系の大学等も御視察されますでしょうか。

【市長】 大学は今回しない予定でありますけれども、関係するアカデミアの方とはお会いできるのかもしれませんが。ぐらいですかね。

【朝日】 どうもありがとうございます。

【産経（幹事社）】 1週間で450万円って結構高いなと思ったんですけど、内訳をお願いします。

【市長】 航空券が230万円です。それから、現地借り上げの車代が約60万円。宿泊費が3名掛ける6泊で約100万円となっております。

【産経（幹事社）】 航空券230万円というのは、3人ともビジネスか何かということですか。

【市長】 いえ、私がビジネスで、職員2名はエコノミーとなっております。

【産経（幹事社）】 それぞれ幾らになるんですか。

【市長】 私が150、職員が40ずつとなっております。

【産経（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【毎日（幹事社）】 よろしいですか。じゃ、あとは各自でお願いします。

【市政一般】

《社会福祉法人母子育成会等について》

【東京】 市政一般もいいんですね。

【市長】 はい。

【司会】 市政一般も大丈夫でございます。

【毎日（幹事社）】 どうぞお願いします。

【東京】 1週間前の議会閉会の日にもお答えをいただいたんですけども、母子育成会の関係で、議場で返金の意向を示されましたけれども、その後、何か進展等はありませんでしたでしょうか。

【市長】 いえ、まだ返金には至っておりません。今、知り合いの弁護士とも相談して、直にやり取りするのはあまり適切ではないと考えておりまして、お互い弁護士同士でやったほうがいいんじゃないかと思っていますので、調整中であります。間違いなく早期に返還したいと思っています。

【東京】 あと、調査についてもいろいろとお話しされていらっしゃいましたけど、そこらも何か進んでいたりとかいうことはありますでしょうか。

【市長】 今調整をしているところでありますけれども、何らかの第三者の目を入れるような仕組みづくりを今検討しているところです。

【東京】 ありがとうございます。

【朝日】 関連してよろしいですか。

【市長】 はい。

【朝日】 一応返金しましたら、記者クラブに情報提供をお願いしたいと思います。

【市長】 承知しました。

【読売】 今に関連してなんですけど、第三者の仕組みづくりというのは、第三者委員会みたいなのを立ち上げる方向なのか、それとも委員会じゃなくて、内部のそういう会議という形式でやるのかというのは、何かお考えはありますでしょうか。

【市長】 今、それも含めて、どういう形というのが、よりスピーディーに客観的な形でできるのかというのを検討してまして。

【読売】 ありがとうございます。

【毎日（幹事社）】 よろしいでしょうか。

《市制100周年について》

【朝日】 朝日新聞でございます。100周年の大きなイベントが終わったわけですけども、市長なりの御感想があれば、成果も含めて自己評価していただけると嬉しいです。

【市長】 まず、昨日の記念式典に先立って行われた6月29日の飛躍祭で、本当に多くの皆さんが100周年をともに祝うという大きな機会になったなと思っています。みんな、当初の目的であった川崎ってすごいとか、川崎って楽しいとかいう、そういう思いをみんなで共有できた取組になったのではないかと思います。また、ブルーインパルスが展示飛行していただいたことによって、かなり皆さん、報道でも取り上げていただいたおかげで、

川崎市以外の人たちも、川崎市が市制100周年なんだということを知っていただいたことになったと思いますし、市民のシビックプライドが大いに上がったのではないかなと思っています。

昨日の式典も川崎の価値、多様性というのを体現した混成合唱団、オーケストラ、出席した方も、オンラインで見た方からも非常に評判よくというか、感激したという声をいただいております、記憶に残るいい式典ができたと思っています。

【朝日】 ありがとうございます。

【毎日（幹事社）】 よろしいでしょうか。

【東京】 ブルーインパルスの演目の件で、予定外のほかの機体の影響を受けて演目の変更があったと聞いていますけれども、ネット上などでは、報道機関のヘリコプターであるようなことも言われていて、水を差したような言われ方もされていたりしますけれども、市長としてはどのように受け止めていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 分かりません。私、全然そのことを承知しておりません。

【東京】 了解しました。

《ふるさと納税について》

【読売】 また、ちょっと話が変わるんですけど、総務省がふるさと納税でポータルサイトの還元をするのを禁止すると出たと思うんですけど、それに対して市長としての見解と、今後、ふるさと納税が結構いろんな記者会見でも出ているとは思いますが、改めてどういった制度になってほしいかみたいなのがあれば、もう一度お願いします。

【市長】 ポイント還元禁止といったところの総務大臣の会見の中で、ふるさと納税の本来の意味、その意義というものを考えて、適正なふるさと納税をしてくださいと呼びかけておられましたけれども、まさに本来のあるべき姿に戻ってほしいと思っています。それと、ポイント還元の禁止については、どう影響してくるかはちょっと未知数なんですけれども、ポイント還元がなくなること懸念しておりますのは、自治体の手数料が増えてしまうのではないかとことをちょっと懸念しております。それはまだ分かりません。ただ、そうなってしまえばますます厳しいことになるなと思っていて、どう影響が出るのかというのは、やってみないと分からないというところだと思います。

【読売】 やってみて、自治体の手数料が予想外に負担額が多いということになれば、また国に対しても要望はしていきたいというお考えでしょうか。

【市長】 そうですね。本当にやってみたらということなんですけれども、これ以上手数料をお支払いしていくというのは、全くもって何のためにということがありますので、そこはしっかりと注視していきたいと思っています。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 質問は以上でよろしかったでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

（以上）

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当